



土岐市長  
加藤 淳 司

あけましておめでとうございます。  
皆さまにおかれましては、清々しい一年の門出をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、これまでのコロナウイルス感染症対策へのご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。皆さまのご協力もありまして、感染が急拡大した第5波も乗り越えることができ、現在も感染者数は抑えられた状況にあります。

さて、約2年にわたるこのコロナ禍で人々の暮らしや価値観は大きく変化いたしました。企業が進めたテレワークや大都市での生活のリスク回避の広がりは、地方にとって移住定住政策の追い風となりました。しかしその一方で、情報インフラや医療インフラの課題やリスクも浮き彫りになり、その対策が急がれております。

こうした情勢を受け土岐市では、情報インフラの整備として国が掲げるデジタル化を推進し、市民生活の利便性や行政の機動性を飛躍的に向上させるとともに、テレワークやワーケーションなど多様な働き方に対応できる環境整備を進めること

といたしました。また医療インフラの整備としては、この地域の持続可能な医療提供体制の構築に向け、その要となる東濃中部地域の新病院建設を引き続き進めてまいります。

巣ごもりによる高齢者の健康について、あるいは文化活動や学びの喪失について危惧する声も多く聞かれます。こうした不安にお応えするべく、健康寿命延伸事業や読書率の向上に資する各種事業をはじめ、文化財保存活用拠点の整備を引き続き進めるとともに、子育て支援施策の拡充をはじめ、2050年のカーボンニュートラルの達成に向けた取り組みをスタートさせるなど、未来を見据えた、人と暮らし、環境に対する投資を積極果敢に行い、潤いある暮らし、愛着と誇りのもてるまちづくりを目指してまいります。

本年も、皆さまとともに新たな時代に向けて種を蒔き、挑戦し、実り多き一年となりますことを祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。

あけましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、健やかに輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。土岐市議会を代表して謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の第3波に始まり、第5波では岐阜県でも連日最多感染者数を更新する事態となりました。発生から2年が過ぎ、感染状況の落ち着きともに行動の制限が緩和され、コロナ禍以前の社会・経済活動を取り戻すための取り組みも進められつつあります。市議会においては、感染防止対策として、インターネットやケーブルテレビでの本会議の視聴をお願いしてまいりましたが、先回の定例会から人数を制限しながら傍聴を再開いたしました。

また、東濃中部の安定的な医療提供体制を構築するため、東濃中部病院事務組合が発足し、土岐市、瑞浪市の両議会から、それぞれ5名が組合議会の議員として選出されました。新病院の建設に向けては、皆さまの安心した暮らしを支える

施設となるよう、土岐市議会としても進捗状況などを注視してまいります。

議会改革では、二元代表制の下、一般質問や議案審議を通じて、市民のニーズを適切な形で市政運営に反映させることを使命とし、多様な人材の市議会への参画を促進する観点から、本会議や委員会の欠席理由に育児、看護、介護などを明文化するとともに、産前、産後期間に配慮する規定を整備したほか、市議会に対する請願書の署名押印の規定を見直すなど、時代に即した議会運営を図るため、会議規則などを改正いたしました。

今後、土岐市議会では、より身近で開かれた議会を念頭に、さまざまな課題に全力で取り組んでまいりますので、さらなるご理解とご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

結びに、本年が市民の皆さまにとって、明るく希望に満ちた素晴らしい年になりますよう心からご祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。



土岐市議会議長  
水野 哲 男

令和4年  
新年のご挨拶